

社会編目 次

- 二一世紀へのかけ橋に………東部町長保科俶教 一一〇
- 監修のことば……………監修者黒坂周平 一一一
- 例 言……………
- 第一 章 総 説……………
- 建設の積み重ね一一九年……………五
- 南面した緩やかな傾斜地帯——地理的な立場より……………三
- 緩傾斜地帯を流れる一五の河川……………五
- 用水堰と溜池の造成……………一
- 東部町地域の気象の特徴……………一
- 降水量 湿度 気温 風向 日照時間……………一
- 干ばつにより農作物に被害……………一
- 氣象の特徴……………
- 水と道の開発と共に進む町の発展……………一一一
- 水を治めることは町を治めることである
道を通じるところ産業開ける
- 口 絵……………

第二章 新しい村の成立 明治前期 明治元年（一一二）年

第一節 村の明治維新	三三	第四節 年貢から地租へ	七八
1 称津旗本領の推移	三四	1 年貢の納入	七八
2 上田藩から上田県・長野県への推移	四一	2 村の地租改正	八〇
第二節 民衆の動き	四六	第五節 産業の新たな動き	八六
1 世ならし騒動—明治二年	四六	1 明治初年のおもな農産物	八六
2 株津領村々の騒動—明治三年	五一	2 養蚕・蚕種の進展	八七
3 四民平等への動き	五一		
第三節 新しい村づくり	五三		
1 区制時代の村—明治四（一一）一年	五三		
(1) 明治四年の区制			
(2) 明治五年の区制			
(3) 明治七年の大区・小区制			
2 新たな地方制度—三新法時代	六二		
3 新しい村の成立	六八		
(1) 分離から再び「県村」へ			
(2) 和村の誕生			
(3) 滋野村の発足			
(4) 発足が遅れた株津村			
第七節 庶民文化のあけばの	一一八		
1 庶民文化	一一八		
2 庶民の教育	一二五		
3 学制の頒布	一二〇		

第三章 町村制による自治

第一節 自治制度確立のための歩み	一四七
1 「近代」村政のはじまり	一四七
2 明治の消防組創設	一五五
第三節 日清・日露戦争と銚後の生活	一九三
戊辰の役から日清戦争まで	
日露戦争と家族保護会	
第四節 信越線の開通	一九七
第二節 産業の一大飛躍	一六〇

第四節 信越線の開通 一九七

1 「近代」村政のはじまり……………一四七

戊辰の役から日清戦争まで
日露戦争と家族保護会

耕地の整理	1	海野宿・田中宿の衰退	一九七
生産技術の発展	2	田中停車場開業	一〇〇
農業諸団体の発足	3	一村一小学校の誕生	一〇五
日露戦争下の農業經營	4	苦闘する学校教育	一一六
養蚕・蚕種業の発展と推移	5	四小学校の誕生	一〇五
座縫り製糸から器械製糸へ	6	苦闘する学校教育	一一六
郷土の産業発展に貢献した人々	7		
	一九二		

第四章 普通選挙と地方自治の拡大 大正時代 大正元年（一九一五年）――

第一節 男子普通選挙の実現	一一一三
2 公民権なきにより村長不承認	一一一四
普通選挙実現のために	
第二節 自治の強化と郡制廃止	一一一七
1 郡制の移り変わり	一一二一
2 郡制廃止となる	一一二九

第三節 養蚕最盛期の村々	一三〇	2 要望みのり滋野駅開業	一四七
1 蘭価上がり農村好景氣	一一〇	3 道路の整備すすむ	一四九
2 伸びる製糸工場	一三七	4 街道交通の発達	一五二
3 農業経営と農作物の推移	一四〇	第五節 大正デモクラシーと教育・文化	一五九
第四節 東部四か村の発展	一四六	1 伸びゆく教育と文化	一五九
1 丸子鉄道と東部四か村	一四六	2 東部四か村に中等学校を	一七五
第五章 不景気から戦争へ 昭和前期 昭和元年（一九二六年）	二八一		
第一節 昭和の恐慌と村の政治	二八三	第四節 太平洋戦争下の農業生産	三三五
1 経済不況と村財政の窮迫	一八六	1 戰争への道	三三九
2 農村恐慌、最悪の事態を迎える	一九四	2 戰時下の教育	三四一
3 恐慌対策の土木事業	一九六	3 戰時下の交通運輸	三五一
第二節 一五年戦争と国民の動員	一九九		
1 满州事変勃発時の東部四か村	二九九		
2 日中戦争下の国民生活	三〇三		
3 太平洋戦争下の戦時生活	三〇八		
第三節 激動二〇年の産業経済	三一三		

第六章 戦後民主主義の出発 終戦から合併まで 昭和二一年～三〇年

三五三

第一節 新しい自治	三五五	(1) 稲作農業の發展 (2) 蔬菜栽培始まる (3) 果樹栽培の進展
1 民主政治への転換	三五五	急増するリンゴ栽培
2 農村を変えた農地改革	三五八	特產地となつたカシングルミの栽培
3 町村財政の再建	三六〇	(4) 畜産の展開と振興策
4 自治体警察の成立と廃止	三六六	(5) 養蚕の推移
5 全村あげての用水池建設	三六八	
(1) 全村事業であつた和池		
(2) 県下最大の積寒事業、弁天池完成する		
6 県村に町制施行さる	三七三	
第二節 経済の復興と発展	三七五	
1 農業近代化への道	三七五	
(1) 食糧危機と増産対策		
(2) 開拓農業の進展		
(3) 農地改革と農村の民主化		
2 商工業の復興	三九一	
平和産業への転換		
商業の再建		
観光開発始まる		
3 農林業生産の発展	三九七	
4 農林業生産の発展	三九七	
5 青年期の教育	四四五	

第七章 東部町の発展 合併後 昭和三一年～六一年

四四九

第一節 町村合併と東部町の発足

四五七

(3) 東部町農協の発足

- 1 合併への動き起きる.....
- 2 一町二村の合併なり東部町誕生..... 四五六
- 3 滋野村合併へと運ぶ..... 四六八

第二節 伸びゆく東部町の歩み

四七四

- 1 東部町の建設——建設期（昭和三一一四年）..... 四七五

(1) 新しい町づくり始まる

(2) 町民の願い実り統合中学建設さる

(3) 全町水道の完成

- 2 拡大する行財政.....

(1) 建設の歩み一〇年

(2) 住みよい町への力の結集

- 3 成長する東部町.....

(1) 住民のための町づくり進む
町民のくらし向上

五〇七

- 4 農業振興への取り組み

(1) 農業振興への取り組み
前久保池の造成

五一〇

第三節 発展する東部町の産業

五一五

(3) 東部町農業の現状

- 1 農業の振興.....
- 2 農業構造の改善.....
- 3 農業生産の動向.....
- 4 農協の合併と事業の拡大.....
- 5 新しい農業をめざして

2 林業の振興

五四九

3 商業の進展

五四九

商業の年次的変化

道路の開発と共に進む商店街

商工会の歩み

五四九

4 観光の開発

東部町観光開発の歩み

五四九

湯の丸高原の開発

奈良原地区の変容

海野宿町並み保存の動き始まる

五四九

5 工業の飛躍的な発展

町の工業の現況

五四九

1 公共事業の推進	五四八	第七節 神社・寺院	六二二
2 コミュニティーと町民広場の造成	五五二	1 神社	六一三
3 四小学校の全面改築	五五五	2 寺院	六二四
4 同和対策事業の推進	五六〇		
第五節 社会福祉の願い	五六三		
1 福祉の歩み	五六三	歴代役職名簿—自治を担つた人々—	六一七
2 東部町の福祉・厚生の現状	五六六	参考文献・資料一覧	六四九
3 福祉厚生関係制度	五六九	資料提供者ご芳名	六五〇
4 保健行政	五七三		
第六節 伸びゆく教育と文化	五七八		
1 教育の現状——二一世紀を展望して——	五七六	あとがき	六五一
2 図書館と本を読む母親たち	五八七	「東部町誌社会編」関係者名簿	六五三
3 乳幼児の保育と教育	五八九		
4 同和教育	五九三		
5 文化財の保護	五九七		
6 同窓会	六〇一		
7 青年会(団)の結成と活動	六〇三		
8 婦人会の結成と活動	六〇九		
9 学校給食	六一三		
10 交通・運輸・通信の近代化	六一五		